

東海理研が歩いてゆく

# この先



自動搬送装置などを備えて省人化・効率化を図る製造現場  
「本社工場は“マザーファクトリー”として協力工場をリードし続けます」



経営管理部は女性チーム  
頼れるリーダーとして信頼されています

## 社員一人ひとりの 仕事での成長が 会社の成長につながる。

私は東海理研のある武芸川で生まれ育ったのですが、知っていたのは社名だけ。高校時代に名古屋ローカルのテレビ番組で「社員一人あたりの売上高が3千万円の小さな巨人」と呼ばれるすごい会社」として紹介されているのを見て、初めてその存在を強く意識しました。

入社してすぐにISO認証取得を担当させてもらえたり、若手社員が大学や大手企業との共同プロジェクトに参加したりと、社員がチャレンジできる社内環境に驚くやら感謝するやら。事業としても、セキュリティ製品の開発ほか時代を先読みした取り組みに積極的で、既成概念にとられない会社と実感しました。

働き方改革が進む今、会社大好き人間が多い当社で、業務再構築による時短と、社員のやる気につながる人事評価制度の仕組みづくりを構築しています。人財を育成し、50年後も地域社会に「東海理研があつて良かった」と思われる会社であり続けたいです。

### 桂田純至

執行役員 経営管理部 部長  
勤続21年

大学では経営情報学科で学び、地元すごい会社に入社。1年目にしてISO取得申請プロジェクトを任される。その後、品質保証部を経て、現在は財務総務の要を任されている。また、社員のやりたいことを会社が支援する「思うは招くPJ」の責任者である。

## 積極的に外に出て 情報をインプットし、 ものづくりに活かす。

ものづくりににおいて「インダストリー4.0」第四次産業革命や「IoT」といった言葉がしきりに飛び交う現在。これまでも最新の設備をいち早く導入してきた当社では、工場内の機械設備や管理システムをバージョンアップし、製造プロセスの円滑化・効率化や、少量多品種、高付加価値製品づくりに対応しています。

今後は、設備以上に人への投資が必要かもしれません。これまでも人材育成には力を入れてきましたが、意識面での一層のレベルアップを図り、現場の一人ひとりが情報を取りに行く体制づくりが求められます。自ら希望して他社見学などに出向き、得た情報を全員でシェアして、新たなアクションにつなげる。そんな積極性を持つ若い社員に期待します。

時代が進み、社会環境が変わっても、組織の核となるのは人。50年後も社員がイキイキ働き、製造を通じて人に喜ばれる会社でありたいです。

### 古山貴朗

製造部組立課 兼 製造工課 課長  
勤続17年

入社からしばらくは製造部門で活躍し、資材およびセキュリティ製品の営業を経て、8年前から再び製造部門へ。営業の視点を生産計画・生産管理に活かして、製造現場で指揮を取っている。



東海理研が歩いてゆく

# この先



AWS公式トレーニングへの参加ほか、社外勉強会やイベントなどに積極的に参加して研鑽を積んでいます  
一人オフィスのため、自律の姿勢も自然と養われます



現在は、営業グループの一員として受発注に対応するほか製造部門とも連携して品質管理や梱包などの納品準備、納品確認まで幅広く対応しながら知識・経験を積んでいます

## 「今できること」に 先見性を組み合わせて 世界に笑顔を。

入社間もない新人時代、右も左もわからず、ただ指示されたことを指示通りにやっただけなのに、先輩から「きちんとやってくれて、ありがとう」と言われ「ちゃんと見ていてもらえる」と嬉しくなりました。先輩方はこのように、愛があつて社会人として尊敬できる人ばかり。理研の社風のおかげで、例えば叱られても「指摘をありがとうございませう」と受け止められ、その後の行動を変え、成長しようと思えている今の自分がいます。こうした社風に、改めて50年後も会社の深みを感じました。

50年後は、『お互いを認め合い、関わる全ての人を幸せにするリーダー』でありたいです。そのため個人としても、自社製品や技術への理解を深めつつ、価値観の違う人とも話し合つて目標を共有することを意識しています。笑顔の50年後を迎えましょう！

### 池村大樹

特機営業技術部 民需課  
勤続1年

関市出身。地元の合同企業説明会で、自分の大学でも使われているPC保管庫のメーカーと知り、親近感を抱く。そのときの常務からの「入社したことを絶対後悔させません」という力強い言葉にひかれて入社。

## 新技術を使って、 思いをカタチにしてゆく 力のある会社。

私は現在、AWS(アマゾン・ウェブ・サービス)というクラウドコンピューティングサービスを利用した顔認証サービスや、データベースを活用した新システム、サービスの提案に向けて日々取り組んでいます。この1年で、頭で考えたことをカタチにしていく技術や、全体を俯瞰した上で、ユーザーの視点から提案する力が身についたと思っています。対外向けの活動だけでなく、社内の教育支援システム開発も現在の大きな課題。社内の人材がリーダーシップを発揮できる環境づくりのためにAWS技術を活用したいと考えています。

50年後の東海理研は、というより会社組織というものが、もしかしたら今のようなカタチとは違っているかもしれませんがね。そのとき、社員が個々の技術や知識を持ち寄つてつくりたいものをつくる「場」として、東海理研が存続し続けてほしいと思います。

### 林祐太

開発設計部 開発設計課  
勤続1年

岐阜出身。地元での就職を考えてインターンシップに参加し、佐藤社長の人柄や東海理研の社風に魅力を感じて入社。将来的には核融合発電による起業を目標としており、現在は働きながら学ぶ毎日。